

令和 3 年 6 月 6 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12176

研究課題名（和文）中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度の開発

研究課題名（英文）Development of the Role Performance Scale for Middle-aged Generalist Nurses

研究代表者

川口 賀津子（Kawaguchi, Kazuko）

国際医療福祉大学・福岡看護学部・准教授

研究者番号：40469383

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：世界的に看護師の高齢化が進んでいる。そのため、中年のジェネラリストの実践は、看護の質の維持に大きな影響を及ぼし、そして、中年看護師の役割はさらに大きくなると考えられる。本研究の目的は、「中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検証すること」であった。最終的な尺度は25項目で構成され、「看護師長のバックアップ」、「若年看護師への非公式なメンターとしての実践指導」、「若年看護師への精神的支援の提供」、「患者・家族への共感的支援の提供」、「チーム医療の調整」の5因子が抽出された。本尺度は、十分な信頼性と妥当性を有することが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界的な問題である看護師の高齢化が日本でも発生しているため、中高年看護師の役割を明確に示し、経験を通じて得た能力を十分に活用して労働力を強化する必要がある。中高年看護師自身は「中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度（RSMGN）」を自己評価ツールとして使用して看護行動を評価でき、看護師長はRSMGNを使用して中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行を評価し、教育を支援することに役立てることができる。

研究成果の概要（英文）：Nursing workers in many countries are aging. Therefore, the practices of middle-aged generalists have a great impact on maintaining nursing quality. It can be said that the role of middle-aged nurses will become even greater.

The purpose was to develop the "Role Performance Scale for Middle-aged Generalist Nurses" and to verify its reliability and validity. The final scale was composed of 25 items, which were divided into five factors: "backing up head nurses," "instructing young nurses on practices as an informal mentor," "providing young nurses with mental support," "providing empathic support to patients and their families," and "coordinating team medical care." This scale was confirmed to have sufficient reliability and validity.

研究分野：看護管理

キーワード：中高年 ジェネラリスト看護師 役割 尺度開発 因子分析

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会に伴い医療提供体制が大きく変化し、看護提供の場や内容も拡大多様化する中で、看護の質の向上は重要な課題である。平成 26 年わが国の看護師(准看護師を除く)人口は約 109 万人、40 歳～59 歳が 44%を占め(厚生労働省, 2014) 看護師の平均年齢は 2013 年には 38.4 歳と上昇しており、今後増々中高年者看護師の増加が予想される。一般に病院勤務の看護師は、トップマネージャー(看護部長・副看護部長)・ミドルマネージャー(看護師長・副看護師長)・スペシャリスト(専門看護師・認定看護師)・ジェネラリスト看護師であるが、圧倒的多数を占めるのがジェネラリスト看護師である。

ジェネラリスト看護師とは、「経験と継続教育によって習得した多くの暗黙知に基づき、その場に応じた知識・技術・能力を発揮できる者」と定義(日本看護協会, 2012)され、管理者やスペシャリストではなく最も患者のケアを行う看護師のことである。中高年ジェネラリスト看護師は、後輩看護師への指導的役割や、人生経験を積んだことによる患者への支援の深まり、など、看護の質を維持・向上させるために多くの役割を果たし、看護の質を支える人材である。

しかし、経験を糧に信念を持ちながら働き周囲からの信頼も厚い中高年ジェネラリスト看護師がいる一方、自分が担当する必要最低限の仕事だけで一日を終え、全体に埋もれている看護師が存在するのも事実である。これは中高年ジェネラリスト看護師としての役割が明確に示されていないことも大きな要因ではないかと考えた。看護管理者や周囲が持つ中高年ジェネラリスト看護師への期待と、中高年ジェネラリスト看護師が自らの価値観で認識する役割の内容や範囲が異なることは、役割遂行の評価にズレが生じることになる。これは、中高年ジェネラリスト看護師のモチベーション低下や能力発揮を抑制する可能性を生み、個人の能力を十分に発揮させるといふ看護管理の側面からも大きな損失である。

現在、中高年ジェネラリスト看護師のケア経験や人生経験を活かした看護実践における行為を評価するツールは存在していない。「中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度」を開発することで、中高年ジェネラリスト看護師に期待されている役割を提示できる。このことは、中高年ジェネラリスト看護師が無意識に行っている看護行為を具体的に振り返ることで、自己研鑽や行動変容においては満足感ややりがいに通じ、中高年ジェネラリスト看護師の実践が活発化することが期待できる。管理者側としては目標提示がしやすく、互いに到達段階を確認しながら人材育成を目指すことが可能となり、看護管理に活用が可能である。

2. 研究の目的

経験豊富な中高年ジェネラリスト看護師のみが果たすことができる役割の遂行を評価する尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検証する。

3. 研究の方法

申請時、尺度開発の第 1 段階である尺度項目素案作成を概ね終了していたため、次段階として内容妥当性の検討と全国調査を通じ、開発尺度の信頼性・妥当性の検証を実施した。

1) 開発尺度の内容妥当性の検討

(1) 対象者：中高年ジェネラリスト看護師 10 名と看護管理の研究者 5 名を研究者の人脈を通じ公募した。

(2) 用語の定義：「中高年ジェネラリスト看護師」とは、10 年以上の経験を持つ 40～59 歳

の女性看護師で、管理職や特定領域のスペシャリスト看護師ではなく、直接的に患者ケアを行う看護師と定義した。「若年ジェネラリスト看護師」とは、3～9年の経験を持つ40歳未満のジェネラリスト看護師と定義した。

- (3) 調査方法：上記15名の対象者に、36項目の尺度素案を郵送し回収を行った。
- (4) 調査内容：尺度素案(36項目)の内容妥当性指数(CVI)
項目の内容妥当性(content validity index at the item level(以下、I-CVI))
スケールの内容妥当性(content validity index at the scale level(以下、S-CVI))
- (5) 分析方法：IBM SPSS Statistics Ver25を使用して分析した。有意水準は $p < 0.05$ (両側)とした。
- (6) 倫理的配慮：調査は、研究者所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

2) 開発尺度の信頼性・妥当性の検証

- (1) 対象者：中高年ジェネラリスト看護師と若年ジェネラリスト看護師であり、それぞれの定義は、上記1)(2)の用語の定義同様とした。
- (2) 調査方法：病院情報サイト「病院検索 Japan」にて無作為抽出した全国200床以上の病院の看護部長宛に、本研究の目的・方法・倫理的配慮等を明記した研究参加依頼書・調査対象者用の説明書・調査票を送付し、勤務する看護師への研究参加協力を依頼した。承諾を得た施設の看護部長を通じ、対象者に無記名自記式質問紙調査票を配布し、対象者個々人からの返送を依頼した。
- (3) 調査内容：
対象者の属性と勤務施設の特徴(年齢、学歴、看護経験の年数、婚姻状況、所属病院の設置主体、病院の病床数)。
36項目からなる中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度(Role Performance Scale for Middle-aged Generalist Nurses in Japan: RSMGN)。
看護職者の職業経験の質評価尺度(QNOES: 6因子30項目)。QNOESは、看護師がキャリアの過程で蓄積した職業経験の質を測定するために開発された尺度(鈴木, 貞弘, 亀岡, 舟島, 2004)であり信頼性と妥当性が実証された既存尺度である。
- (4) 分析方法：データは、SPSS Ver25 および Amos Ver25 を使用して分析した。有意水準は $p < 0.05$ (両側)とした。項目分析・相関分析を行った上で、主因子法・プロックス回転での因子分析にて探索的因子分析を行い、続いて共分散構造分析を用いて確認的因子分析を行った。基準関連妥当性・既知グループの妥当性を確認した。信頼性は、スケール全体および各因子のクロンバックのアルファ係数を確認した。
- (5) 倫理的配慮：調査は、研究者所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。施設の看護管理者と対象者に研究主旨・自由意思による参加、プライバシー遵守など文書で説明した。また、データ処理および廃棄方法、研究結果の公表について説明した。対象者に配布した無記名自記式質問紙調査票への回答と返信を持って本研究への参加同意を得たものとした。調査は研究者所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

1) 開発尺度の内容妥当性の検討

5名の看護管理研究者と10名の中高年ジェネラリスト看護師を対象に、尺度項目の妥当性の指標として、アイテムレベル(I-CVI)とスケールレベル(S-CVI)の両方を算出した。個々のI-CVIは0.87～1.00の範囲で、平均S-CVIは0.92であった。一般に、 $I-CVI \geq 0.8$ および $S-CVI \geq 0.9$

は、適切な尺度項目の有効性を示す (Polit & Beck, 2017)。すべての項目および全体尺度はこれらの基準を満たしていることから内容妥当性があると判断した。対象者の評価を基に、全国調査の対象者が質問を理解しやすいように、文章表現を一部修正し尺度項目を決定した。

2) 開発尺度の信頼性・妥当性の検証

(1) 対象者の概要

837 名の中高年ジェネラリスト看護師に質問紙調査票を郵送した。そのうち 559 名が回答し、504 名分の回答を有効とした (有効回答率 60.2%)。平均年齢は 47.0 ± 5.1 歳で、経験年数の平均は 23.5 ± 6.1 年であった。また、若年ジェネラリスト看護師 800 名への質問紙調査では 331 名が回答し、311 名分を有効とした (有効回答率: 38.9%)。平均年齢は 28.4 ± 3.2 歳で、経験年数の平均は 6.2 ± 2.1 年であった。

(2) 項目分析

36 項目の平均点は 3.12~4.13 の範囲で (標準偏差 0.55-0.92)、天井効果・床効果は検出されなかった。全項目間で有意な相関が認められた。相関係数が 0.7 以上の項目については、意味内容が明らかに異なるため、すべての項目を残すことにした。I-T 分析では、各項目間の相関は 0.73~0.41 の範囲であった。G-P 分析では、平均点 (129.64 点) をカットオフ (分割点) とし、上位グループと下位グループに分けたが、全項目の得点において上位グループが高かった。

(3) 因子分析

項目分析では削除項目がなかったため、主因子法・プロマックス回転を使用して、36 項目すべてに探索的因子分析を実行した。因子選択の条件 (Kaiser-Meyer-Olkin 測定値・1 以上の固有値とスクリー基準・共通性・負荷値が 0.4 以上) を満たさない項目を削除し最終的に 5 因子 25 項目を採用した。中高年ジェネラリスト看護師の役割として 5 因子が抽出された。各因子の項目数と命名については以下の通りである。

第 1 因子 (6 項目): 看護師長のバックアップ

第 2 因子 (7 項目): 若年看護師への非公式なメンターとしての実践指導

第 3 因子 (5 項目): 若年看護師への精神的支援の提供

第 4 因子 (3 項目): 患者・家族への共感的支援の提供

第 5 因子 (4 項目): チーム医療の調整

第 1 因子~第 5 因子の寄与率はそれぞれ 41.19%、7.70%、6.81%、5.91%、3.79% であり、累積寄与率は 65.38% であった。

(4) その他、妥当性について

基準関連妥当性については、すべての項目間に中程度の相関関係が確認されたこと、QNOES の合計点に対するスピアマンの順位相関係数は 0.58、因子 1~5 の値はそれぞれ 0.55、0.40、0.45、0.38、0.52 であった ($p < 0.01$) ことから RSMGN の内部整合性が確認された。既知グループ妥当性については、マンホイットニー-U-テストにて、中高年ジェネラリスト看護師と若年ジェネラリスト看護師可間には有意差が認められた。

(5) RSMGN の信頼性

RSMGN の全体尺度のクロンバックアルファ係数は 0.94 を示し信頼性を有していた。さらに、第 1 因子~第 5 因子のクロンバックのアルファ係数は、0.91、0.88、0.86、0.85、0.72 で全て > 0.7 であり、これは RSMGN が更に信頼できることを支持するものであった。

(6) 適合度評価

確認的因子分析を行い、GFI = 0.907、AGFI = 0.886、CFI = 0.945、RMSEA = 0.054 であった。いずれの結果も適合度の標準基準を容易に満たしていたことから因子の適合性に問題は

なく、RSMGN の妥当性が検証された。

以上より、本研究で開発した 5 因子 25 項目の「中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度 (RSMGN)」は、さまざまな分析により十分な信頼性と妥当性を備えていることが確認された。世界的な問題である看護師の高齢化が日本でも発生しているため、中高年看護師の役割を認識し、経験を通じて得た能力を十分に活用して労働力を強化する必要がある。十分な看護の質を維持するためには、中高年看護師に期待される役割を明確に示し、その実践を評価することが重要であった。中高年ジェネラリスト看護師は RSMGN を自己評価ツールとして使用して看護行動を評価でき、看護師長は RSMGN を使用して中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行を評価し、教育を支援することができると思われる。

【引用・参考文献】

- 1) Akamine, I., Uza, M., Shinjo, M., & Nakamori, E. (2013). Development of competence scale for senior clinical nurses. *Japan Journal of Nursing Science*, 10, 55-67.
<https://doi.org/10.1111/j.1742-7924.2012.00210.x>
- 2) Fackler, C. A. (2019). Retaining older hospital nurses: Experienced hospital nurses' perceptions of new roles. *Journal of Nursing Management*, 27(6), 1325-1331.
<https://doi.org/10.1111/jonm.12814>
- 3) Hatcher, B. J., Bleich, M. R., Connolly, C., Davis, K., Hewlett, P. O., & Hill, K. S. (2006). Wisdom at work: The importance of the older and experienced nurse in the workplace. [Cited 15 January 2020]. Available from URL:
<https://folio.iupui.edu/bitstream/handle/10244/528/wisdomatwork.pdf>
- 4) 平井さよ子. (2004). 看護職のキャリア開発. 日本看護協会出版会.124-135.
- 5) 鈴木 美和, 定廣 和香子, 亀岡 智美, 舟島 なをみ. (2004). 看護職者の職業経験の質に関する研究 : 測定用具「看護職者職業経験の質評価尺度(QNOES)」の開発. 看護教育学研究, 13, 37-50. https://doi.org/10.19015/jasne.13.1_37

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kawaguchi Kazuko, Hatono Yoko	4. 巻 18
2. 論文標題 Development of the Role Performance Scale for Middle Aged Generalist Nurses in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan Journal of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/jjns.12397	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 川口賀津子
2. 発表標題 中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行状況とその関連要因
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口賀津子
2. 発表標題 Development of the role performance scale for middle-aged generalist nurses in Japan
3. 学会等名 Conference Secretariat of the 22th EAFONS
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口賀津子
2. 発表標題 中高年ジェネラリスト看護師の役割遂行尺度の開発
3. 学会等名 日本看護科学学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川口賀津子
2. 発表標題 A qualitative study on the role of middle-aged generalist nurses in a hospital
3. 学会等名 Conference Secretariat of the 20th EAFONS (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川口賀津子
2. 発表標題 Comparing the roles self-recognized by middle-aged generalist nurses with the roles expected of them by nurse managers
3. 学会等名 International Society of Caring and Peace Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川口賀津子
2. 発表標題 文献に見るジェネラリスト看護師に関する研究動向
3. 学会等名 日本看護研究学会九州地方会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鳩野 洋子 (Hatono Yoko) (20260268)	九州大学・大学院医学研究院保健学部門・教授 (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------